

呼吸器内科

研修実施責任者

東京労災病院呼吸器内科部長

戸島 洋一

研修指導医

東京労災病院第二呼吸器内科部長

酒井 俊彦

1 一般目標

基礎研修で身に付けた呼吸器疾患の患者に対する基本的な問診・診察・検査計画の立て方を更に発展させ、日常よくみられる呼吸器疾患から比較的稀な呼吸器疾患まで含め、診断・治療ができる。

慢性呼吸器疾患の管理・指導ができる。

肺腫瘍などで死にゆく患者に対する緩和治療を身に付ける。

2 身に付けるべき基本能力

- (1) 医療面接による情報収集ができる
- (2) 患者へ疾患や予防について説明できる
- (3) 患者の身体診察と所見の記載ができる
- (4) 症状や兆候から検査計画を立て、適切に指示を出すことができる
- (5) 胸部単純 X 線写真、胸部 CT 写真の基本的な読影ができる
- (6) 診察や検査の結果をみて診断を考えることができる
- (7) 主要な呼吸器疾患に対する初期治療ができる
- (8) 気管支喘息に対する適切な指導、管理ができる
- (9) 慢性呼吸不全に対する適切な指導、管理ができる
- (10) 肺腫瘍患者に対する治療方針の決定、化学療法を選択、緩和医療ができる
- (11) 症例プレゼンテーションを状況に応じてできる

3 経験すべき症状・病態

- (1) 呼吸困難
- (2) 咳・痰
- (3) 胸痛
- (4) 血痰

- (5) 低酸素血症
- (6) 高炭酸ガス血症
- (7) 胸水貯留

4 経験すべき疾患、治療法

- (1) 急性肺炎、急性気道感染症（抗菌剤の選択、呼吸管理）
- (2) 気管支喘息（急性発作に対する治療、慢性期の管理）
- (3) 慢性閉塞性肺疾患（急性増悪に対する対応、慢性期の管理）
- (4) 間質性肺疾患（鑑別診断、胸部 CT の読影、副腎皮質ホルモンの使い方）
- (5) 肺癌（治療方針の決定、緩和医療）
- (6) 塵肺、石綿肺などの職業性呼吸器疾患
- (7) 自然気胸（胸腔ドレナージ）
- (8) 肺血栓塞栓症（CT、肺血流シンチグラム、血管造影での診断と初期治療）
- (9) 胸膜炎（胸腔穿刺、胸水の鑑別診断、胸腔ドレナージ）
- (10) 急性呼吸促迫症候群（ARDS の全身的治療）

5 身につけるべき検査・治療手技

- (1) 酸素療法
- (2) 吸入療法
- (3) 抗菌薬の適切な使い方（抗結核薬を含む）
- (4) 気道確保・人工呼吸管理（非侵襲的人工呼吸も含む）
- (5) 胸水穿刺・胸腔ドレナージ
- (6) 気管支鏡、経気管支肺生検、気管支肺胞洗浄
- (7) 喀痰のグラム染色、抗酸菌染色
- (8) 緩和ケア（呼吸困難、疼痛などの身体症状、精神的側面も含む）
- (9) 呼吸リハビリテーション